

【概要版】滋賀県産業振興ビジョン2030 振り返りと中間総括(令和8年8月)

中間総括の実施 (P2～)

【趣旨・目的】

本県では、産業振興施策を推進するため、2020年～2030年(11年間)の中長期指針として、「滋賀県産業振興ビジョン2030」(以下「ビジョン」という。)を令和2年(2020年)3月に策定。令和7年度が折り返し点となり、後半期に差し掛かっているため、前半期の成果や課題について振り返りを行い、後半の施策に反映することを目的に、中間総括を実施。

※定期的な効果検証としては、毎年度、主要な指標のモニタリングの実施と「中小企業活性化施策実施計画」を策定

【中間総括の手法】

手順①: 主な指標や事業について、振り返りを実施 手順②: 視点ごとに成果・課題を踏まえた中間総括を実施 手順③: 経済団体や中小企業活性化審議会等から意見聴取

ビジョンの概要 (P6～)

ビジョン

(2030年の目指す姿)

- ・「新たなチャレンジ」が日本で一番行いやすい県
- ・「社会的課題」をビジネスで解決し続ける県



2つの目指す姿に向け、4つの視点を重視

【視点】

【視点ごとの例】

①チャレンジする人・企業が集まる滋賀

- ・高校生・大学生からの起業家教育の推進
- ・革新者の創造や近江商人等先人の教えの継承
- ・滋賀の魅力を高め、発信

②実証実験のフィールド滋賀

- ・大学・市町・企業等多様な主体による新しいテクノロジー等を活用し、課題解決に向けた実証実験の場の提供
- ・特区制度等に見られる規制緩和の取組の推進

③ビジネスで実践する「健康しが」

- ・誰もが取り残されることなく、人・社会・自然の健康をビジネスの観点から推進
- ・循環型経済(サーキュラーエコノミー)の取組の推進

④世界から選ばれる滋賀

- ・世界で稼ぐ力の向上
- ・滋賀の企業が持つ技術・サービスを世界に拡大
- ・人や投資を世界から滋賀に誘引

中間総括(経済団体や事業者からの主なご意見) (P13)

- ・異業種間や組織間、産学官連携等、**有用的につながる「共創」**の仕組みづくりにより、企業の挑戦や変革、意欲創出を促し、地域連携による更なる相乗効果を図ることが必要。
- ・**社会的課題の解決は、新たなマーケットの開拓**につながる可能性もあり、ビジョンでも踏み込んで、県を挙げて取り組んでほしい。
- ・**新たな価値を見出せるような実証実験のフィールド**となるような支援や取組も重要。
- ・近江商人の「三方よし」の経営理念も大事にし、AI等先端技術を取り入れることで、**時代にあわせて自ら変革**することも重要。

中間総括(視点ごとの振り返り) (P7～)

- ・地域課題解決や新産業・雇用創出に向け、**10年間で245件の事業化シーズを発掘**。
- ・開業率は減少傾向。起業・創業支援や、**開業後の事業継続・拡大の支援強化**が必要。
- ・生産年齢人口は減少。**中小企業の人材確保やAI等の活用人材の育成**が課題。
- ・産業用地の不足が課題。生産拠点の新設や県内立地企業の再投資の促進も必要。
- ・**38件の実証実験のうち3件がモデルケース**として社会実装に結実。
- ・実証実験や事業化の支援により、**技術シーズの実用化の後押し**が必要。
- ・**規制緩和に係る潜在的ニーズの掘り起こし手法**や特区制度活用の検討が必要。
- ・持続可能な産業・社会の発展基盤となる**共創の仕組み**の更なる拡大が求められる。
- ・他の視点に比して取組が限られており、**事業や施策が不足**していることが課題。各分野で、健康しがに取り組むビジネスの創出や推進を進める必要がある。
- ・循環型経済の推進に向け、研究開発の支援や**動静脈事業者の連携**促進が必要。
- ・CO2排出量削減の具体的な行動につなげ、事例の横展開が必要。
- ・世界で稼ぐ力を向上するため、水環境分野での取組を通してできた国内外のネットワークなどを活かし、**脱炭素など環境分野全般を中心に海外展開の後押し**が必要。
- ・外国人雇用事業所は増加傾向。**外国人材活躍の経験やネットワーク・ノウハウの蓄積・波及、県の魅力発信**も必要。

ビジョン推進にあたり、捉えるべき「変化」(P14,15)

ビジョン策定からこれまでの本県企業を取り巻く環境の変化やその対応を踏まえ、ビジョンの後半5年間にに向けた事業展開の指針を整理

【取り巻く環境の変化とその影響】

- ①労働供給制約社会への直面
- ②AI・AXの進展
- ③インフレ・金利のある世界
- ④GX・脱炭素
- ⑤地政学的変化・経済安全保障
- ⑥海外からの注目

【対応の方向性】

- 人材を「増やす」から「活かす」に労働生産性の向上が肝要
- 変化に強い企業体質づくり
- AIを前提とした産業振興に成長産業の振興に着手
- インバウンドや海外ビジネス機会の獲得等